



2016年3月26日

アウディ ジャパン株式会社  
プレス問い合わせ 03 - 5475 - 6309  
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106  
アウディコミュニケーション センター

## 新型 Audi R8 を発売

2世代目に進化したアウディのフラッグシップスポーツモデル

2016年日本市場向け販売台数 限定 100台

- 540PS と 610PS、2タイプの自然吸気 V10、5.2ℓ 高回転型エンジンを搭載
- アルミと CFRP を組み合わせた新世代の軽量構造ボディ、アウディ スペース フレーム (ASF) を採用
- レーザーハイビーム付き LED ヘッドライト、アウディバーチャルコックピットなどの先進装備を設定

アウディ ジャパン株式会社 (本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹) はフラッグシップスポーツモデルの Audi R8 をフルモデルチェンジし、本日より受注を開始、7月5日より全国の Audi Sport 店 (24 店舗、現時点) を通じて、2016 年初年度は日本市場向け 限定 100 台を販売します。

欧州で 2006 年に 1 世代目が発売された Audi R8 は、卓越したダイナミック パフォーマンスにくわえてスーパースポーツカーの常識を覆す快適性を手に入れたことで好評を博し、これまでに全世界でおよそ 2 万 7000 台が販売されました。

初代のデビュー以来、9 年目にして登場した新型 Audi R8 は、最高出力 540PS の R8 V10 と、そのハイパワーバージョンにあたる最高出力 610PS の R8 V10 plus が日本に導入されます。駆動系は、新開発の quattro フルタイム 4 輪駆動システムと 7 速 S トロニックの組み合わせとなります。

新型 Audi R8 は、さらにパワーアップを果たした自然吸気 V10 5.2ℓ の高回転型エンジン、新世代のアウディ スペース フレーム (ASF)、新開発の quattro フルタイム 4 輪駆動システムなどを搭載。ミッドシップ スポーツカーらしいプロポーションを先代モデルから引き継ぎながら、より低く、よりワイドで、より筋肉質なデザインに一新し、アウディのフラッグシップスポーツカーに相応しい迫力と先進性を視覚的に表現しています。

新型 Audi R8 の各モデルと価格は以下のとおりです。

モデル	パワー / トルク	ハンドル位置	販売価格 (税込)
Audi R8 V10 5.2 FSI quattro	540PS/540Nm	右/左	¥24,560,000
Audi R8 V10 plus 5.2 FSI quattro	610PS/560Nm	右/左	¥29,060,000

※トランスミッションは全モデル 7 速 S トロニックを搭載します。

## ■新型 Audi R8 の概要

### ●さらにシャープで高精度なエクステリア デザイン

いかにもミッドシップ レイアウトらしい前よりのコックピットと長いリアデッキを持つプロポーションを継承しながら、先代モデルよりもさらにシャープで、高い精度を思わせるエクステリア デザインが新型 Audi R8 の特徴です。インテリアはアーチ型のラインでコックピットを囲い込む“モノポスト”と呼ばれるコンセプトを採用。ドライバーとの一体感を一層高めてくれます。

### ●よりフラットでワイドなプロポーション

4426mm の全長と 1240mm の全高は先代モデルに近いものですが、全幅は 40mm 近くも幅広くなって 1940mm となり、よりフラットでワイドなプロポーションに進化しました。また、アルミと炭素繊維複合材料 (CFRP) を組み合わせたアウディ スペース フレーム (ASF) を新開発することにより、フレーム重量は先代モデルを 10kg 下回る 200kg となりました。

### ●ダイナミックなパフォーマンスと優れた燃費性能

自然吸気 V10、5.2ℓ エンジンの最高出力は 2 タイプ。R8 V10 が 540PS、R8 V10 plus が 610ps。燃料噴射方式は、どちらも直接噴射の FSI とポート噴射の MPI を組み合わせたデュアル インジェクションを採用しました。また、低負荷時にはエンジンの片バンクを休止させるシリンダー オン デマンド (COD) を採用。アクセルペダルをオフしたときにはエンジンを駆動系から切り離すコースティングモードとあわせて、先代モデルをしのご高い燃費性能を実現しました。

### ●新開発の quattro ドライブと 7 速 S トロニック

前輪への駆動力伝達に電子制御油圧多板クラッチを用いることで、前後のトルク配分をより素早く、より幅広い範囲で制御。この結果、優れたトラクションとダイナミックなハンドリングをより高い次元で両立することができました。また、ギアボックスは素早いシフトとスムーズな作動で好評を博している 7 速 S トロニックを採用しています。

### ●インスツルメントパネルの未来形、アウディ バーチャルコックピット

インスツルメントパネルに設置された 12.3 インチの TFT ディスプレイに、スピードメーターやタコメーターだけでなく、ナビゲーション システムを始めとする様々な情報を表示できるアウディ バーチャル コックピットを標準装備。新型 Audi R8 ではタコメーターを中央に大きく映し出すパフォーマンス モードを新たに用意しました。

### ●レーザーハイビーム付き LED ヘッドライト

新型 R8 は左右にそれぞれに 37 個もの LED を備えた LED ヘッドライトを標準で備えるほか、R8 V10 plus にはドライバーの視界を格段に広げるレーザーハイビームを搭載。レーザースポットは 60km/h 以上で走行中のみ作動するほか、周囲に交通がある場合は照射パターンを変化させて防眩効果を生み出します。

### ●最新世代のマルチメディアインターフェイス (MMI) とアウディコネクトを装備

スマートフォンに近いフラットな階層構造を採用することで、より直観的に操作できるようになった最新の MMI を装備。また、携帯電話回線 (LTE) を通じてインターネット上から様々な情報をリアルタイムに入手できるアウディコネクトも標準装備しました。

※仕様は欧州仕様車の参考値

(ご参考)

栄光に彩られた歴史：初代 Audi R8 の足跡

2003 年のフランクフルトショーに展示されたコンセプトカー Audi Le Mans quattro が Audi R8 の始まりでした。欧州で 2006 年にデビュー。Audi Le Mans quattro の特徴でもあった流麗かつ力強いスタンスの 2 ドア クーペボディ、シングルフレームグリル、ボディサイドのドア後方に設けられたサイドブレード、ミッドシップされたエンジンのパワーを quattro ドライブで路面に伝えるドライブトレイン、軽量高剛性なアウディ スペース フレーム (ASF) などそのまま引き継いだほか、全長、全幅、全高、ホイールベースなどの諸元もコンセプトカーとほとんど変わりありませんでした。

2007 年に発売された初代 Audi R8 は、排気量 4.2ℓ の自然吸気 V8 エンジンとシングルクラッチ式ギアボックスの 6 速 R トロニックを搭載。ビスカスカップリングを介して 4 輪を駆動する quattro ドライブが採用されました。

2 年後の 2009 年には排気量 5.2ℓ の自然吸気 V10 エンジンを搭載した Audi R8 5.2 FSI quattro がデビュー。2010 年には同じ V10 エンジンを積むオープントップモデルの Audi R8 Spyder を追加。

2013 年のマイナーチェンジでは、シングルクラッチ式ギアボックスがデュアルクラッチ式の 7 速 S トロニックに進化。また、6 速マニュアル ギアボックスが Audi R8 4.2 FSI quattro だけでなく R8 5.2 FSI quattro にも追加された結果、R8 Spyder 5.2 FSI quattro を含めて計 5 モデルにラインナップを拡大しました。

いっぽう、デビューの翌年にあたる 2008 年には早々と GT3 仕様のレースカーが完成。Audi R8 LMS と名付けられたこの GT3 マシンは、2015 年までに通算 28 のシリーズタイトル獲得にくわえて 8 つの 24 時間レースで総合優勝する活躍を示し、アウディのスポーティなイメージを向上するうえで大きな役割を果たしてきました。